



氷上子育て学習センターが移転

10月1日、氷上子育て学習センターがゆめタウンの1階に移転しました。スペースが約2.8倍に広がったほか、利用者は階段やエレベーターを使わずに入場できるようになります。オープニングイベントでは除幕やくす玉開きが行われ、新しいセンター内では着ぐるみといっしょにダンスをしたり、絵本の読み聞かせが行われ、子どもと保護者たちの笑顔であふれました。



避難所や災害を体験「防災フェスタ」

9月27日、ゆめタウンポップアップホールで、防災フェスタが開催されました。会場内には避難所パーティションが設置されており、実際に組み立てたり、中に入るなどして、避難時の様子を体験することができました。VRゴーグルを使った災害体験もあり、ゴーグル越しの災害を体験した12歳の来場者は「本棚が倒れる前に対策をして、家族が危なくないように地震に備えたいと思った」と話していました。



東播丹波連絡道路早期実現促進大会を開催

9月12日、西脇市のオリナスホールで、第7回国道175号東播丹波連絡道路早期実現促進大会が開催されました。大会では、近畿地方整備局発表の令和8年度予算概要に国道175号西脇・丹波間の調査実施が明記されたことを受け、地域の熱い思いを国に伝えるべく、谷公一衆議院議員、末松信介参議院議員、加田裕之参議院議員代理、兵庫国道事務所長に対し、東播丹波連絡道路の早期実現を求める要望が行われました。



廃校を活かした怪談イベント

9月13日、芦田集学校で怪談イベント「最後の授業 - 誰か、あの子を消したのか -」が開催されました。怪談ユニットの「NANICA」が企画し、参加者は薄暗い夜の校舎の中で用意された部屋を巡り、語り手の迫力のある怪談に引き込まれていました。福知山市から来た7歳の参加者は、「夜の学校に入ったのは今回がはじめてで、場面によって急に話し方が変わるところが怖かった」と感想を話していました。



市内のミュージアムなどが大集合！

9月22日、植野記念美術館でミュージアムフェアが開催されました。市内の博物館や図書館が集まり、ワークショップを行いました。かつて市内に生息し、現在は絶滅した淡水魚ミナミトミヨのペーパークラフト作り（写真上）や、恐竜の頭骨パズル（左下）、人形劇団ミックスジュースによる紙芝居『たべられたやまんば』（右下）など、6つのブースで多くの参加者が自然や芸術、歴史に触れる体験をしました。



秋季特別展「太閤の世を生き抜いて —織田家と京極・国替の軌跡—」が開幕

10月3日、柏原歴史民俗資料館と柏原藩陣屋跡で開催される秋季特別展「太閤の世を生き抜いて - 織田家と京極・国替の軌跡 -」が始まりました。同資料館では約20年ぶりに行われる大型の特別展で、オープニングイベントでは丹波市観光アンバサダーの新木宏典さんも式典に参加し、テープカットを行ったほか、FM805の公開収録にも登場し、担当学芸員と特別展の魅力について語りました。

Machikado - Topics

まち☆とぴ



「秋の全国交通安全運動」 ポスター発表式と出発式を実施

9月21日、ゆめタウンで「秋の全国交通安全運動」のポスター発表式と出発式が行われました。式典では、昨年度のポスターコンクールで兵庫県の最優秀賞を受賞し、本運動のポスターに採用された園田悠馬さん（青垣中1年生）が一日警察署長に委嘱され、代表して決意表明を行い、関係機関が一致団結して交通安全を呼びかけました。



建築士会旧柏原支部が剰余金を寄贈

9月1日、令和8年3月に解散した兵庫県建築士会柏原支部が会費の剰余金（50万円）を市へ寄附するため、市長を訪問しました。副支部長（解散時）の出町慎さん（写真中央）は、「過去の先輩方から積み重ねてきた大切な会費なので、公益的な事業に使っていただくことが会の趣旨であると判断し、寄附をするに至った。まちづくりに関する様々な活動に活用してほしい」と話していました。

